

NEUTRAL 通信 vol.15

「まるで本屋に立ち寄るかのように、アートやクラフトを気軽に楽しんでもらいたい」という NEUTRAL のコンセプト実現に向け、NEUTRAL 通信を発行しています。

第15回目は NEUTRAL にて展覧会を開催中の石黒由枝さん。

NEUTRAL 通信が作品鑑賞のヒントとなりますように。

「LO 展 “視点”」

2024.9.7sat. - 9.23mon.



革物作家

石黒 由枝 / YOSHIE ISHIGURO

アパレル企業に勤めた後、革靴のオーダーメイドのアトリエで3年修行。2015年に独立。オーダーメイドの受注製作をしながら、2019年「LO」オリジナルラインを発表。2022年新たな制作活動として「YOSHIE ISHIGURO」を発表。

堀川新文化ビルディング 館内インフォメーション

大垣書店
OGAKI BOOKSTORE

夏が終わると少し寂しい、夏うまれの館長です。五山の送り火が過ぎると一層に夏の終わりを感じます。ここからは長い残暑が始まるのですが...心地よい季節は早く秋が過ぎるとまた寒い季節です。最近のおススメの一冊をここで。スズキナオさんの「駅から5分の旅館に泊まる」。旅と食のエッセイなのですが、ゆるーく生きる景色が心地よく、アンニュイな読後感。頑張るとか、成長するといったカテゴリーでなく、フツーに生きる心地よさ。ぜひ当店で買い求めください。

営業時間: 10:00~22:00 TEL: 075-431-5551



暑い日が続きますがいかがお過ごしでしょうか。私も館長と同じく夏生まれの人間ですので、夏の終わりは寂しく感じます。SLOWPAGEでは9月末まで夏の季節限定メニューとしてマンゴーすろっぺとごろっとマンゴーパンケーキを販売中です。ぜひご賞味ください!!秋口には新たなフレーバーをご用意していますのでお楽しみに!

営業時間: 8:30~23:00 TEL: 075-431-5551

SHOKODO
KYOTO

ドイツ・ハイデルベルク社製プラテンで印刷した「活版印刷見本帳」が完成!紙やインキの違いの見本全13種類と実験の付録付き。異なる線数、文字、網点濃度、プレスで特殊紙、板紙、包装紙など様々な紙に印刷。活版印刷機オペレーター入魂の一作を、ぜひ店頭で!

営業時間: 10:00~18:00 TEL: 080-4248-3432 月・日祝 定休

NEUTRAL
HORIKAWA

「銀の葉」展 一紙と本と印刷とデザインとー

2024.9.7sat. - 2024.9.23mon.

[EXTRA-NEUTRAL]

Art Rhizome KYOTO (アート・リゾーム・キョウト) 2024

「逆旅京都 (げきりょ きょうと)」

2024.9.3tue. - 2024.11.6wed.

営業時間: 10:00~19:00 TEL: 075-431-5537

Gallery P A R C
GRAND MARBLE

滞留 STAGNATE

2024.8.24sat. - 2024.09.15sun.

科学者と美術作家の交流を促す「ファンダメンタルズ プログラム」への参加を機に出会った、美術作家の木村垂津と前川紘士、生物学者の富田秀一郎による自主企画展。9月15日【日】15時~16時には出展者の3人が、これまでの交流の経緯や本展について、スライドを交えてトークします。(申込不要・先着順受付15名まで)

営業時間: 13:00~19:00 TEL: 075-334-5085 水・木 定休

毎週土曜のみ 10:00~19:00 開廊

堀川新文化
ビルディング
HORIKAWA
NEW CULTURE BLDG.
KYOTO

〒602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287

[アクセス]

○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩15分

○京都市バス9番・12番・50番・67番系統

「堀川中立売」バス停下車徒歩1分

○駐車場・駐輪場あり

※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

ホームページ



Instagram



お問い合わせはHPまで



——子どもの頃のことをお聞かせください。

ファッションは昔から好きで、手を動かして何かをつくることや作業することも好きでした。私の母は、若い頃には映画の中で女優さんが着ている服を自分で似た生地を買って誂えたりしていて、中学校・高校生になった頃にはそうした服を私が譲り受けていました。昔のものなのでそのまま着るのではなく、その頃からコートやバッグに作り替えたりして楽しんでいました。

——作家を目指したきっかけを教えてください。

学校を卒業後、アパレル関係の会社で働いていたのですが、漠然と何かつくりたいな、という思いがありました。会社を退職後、友人が働いている革製品の修理屋で助っ人として手伝う機会があり、はじめて革製品に触れました。修理ができれば、バッグなども自分でつくれるのではないかと思い、修行先を探しました。西宮の自宅から通える場所にあつて一番作品がかっこいいと思った工房に働きたいと電話したら、一回来てと言われて。実際に伺うと、「3年働いたら、独立できるくらいのは教えられるよ。」と言われ、3年と決めてすぐに働き始めました。その後、師匠の言葉通り3年働きそのまま独立して作家になりました。

——ブランド「LO（エルオー）」はどうやってできたのですか。

修行先が革製品のフルオーダーメイドを制作する工房だったので、独立してすぐは同じようにフルオーダーで受注を受けるようになりました。そうすると、受注の波があつたり、お客様の好みに合わせてたくさん素材を準備しなくてはならなかつたりと大変な部分も出てきて、オリジナルをつくろうと思うようになりました。フルオーダーは技術・時間・素材をつぎ込んで、足し算でお客様の目指すものを一緒に作っていくという作業なんです。オリジナルは値段を落とさないといけない、そしてある程度量産できないといけないのでパターンや素材、ステッチなど、手数をできるだけ少なくする必要があります。試行錯誤の中で、革を折る点や線について考えるようになりました。究極にそぎ落としたり、そこに無限のバリエーションがあることに辿り着いて、それが面白くて。

全てを削ぎ落とすという考えのもとつくったのが「LO」というブランドです。

——新しいブランドについても教えてください。

「LO」は削ぎ落して削ぎ落ちてなるべく値段帯を安くして、1人で量産できる、つくりがシンプルなもの、がコンセプトだったので、だんだんそれだけでは私自身が物足りなくなってしまう。ものづくりの中で生まれる動作をバッグに落とし込んだり、点と線など今私が気になることを、もう少し自由に深掘りして制作しているのが、新ブランドの「Yoshie Ishiguro」です。小物も少しありますがバッグがメインのブランドで2022年から制作をしています。

——どのような環境で制作されていますか。

独立後、兵庫県西宮市で一軒家の1室を工房にして制作をはじめたのですが、とても狭くて、いつかは広い場所で制作したいという気持ちがありました。約8年前に京丹波町の和知に引っ越し、元々ガレージだった場所を工房にして広々とした制作環境が整いました。豊かな自然の中で、生活自体も自然とシンプルとなつていきました。

また、引っ越してすぐに「森の展示室」という森の中で開催されるイベントをお手伝いした時に、主催者で和紙職人のハタノワタルさんや、近くにお住まいのいろんな作家さんと知り合いました。現在も交流は続いていて、とてもよい影響を受けています。

——展覧会を見に来た方にひとこと。

ぜひ会場内をぐるぐると歩き回って、色々な角度から視点を変えてご覧ください。

